
恋の狂騒曲-クールな飼い主と猫の恋-

結城 綾

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋の狂騒曲 - クールな飼い主と猫の恋 -

【Nコード】

N4220BA

【作者名】

結城 綾

【あらすじ】

真面目一辺倒で面白味のない私、会社は倒産、恋人はなし。

一度に色んなことが起きて私は猫の格好をしてダンボールの中に入ってみた。

冗談で捨て猫になったのに、そんな私を拾ったのはいつもクールで無表情の飼い主様。

お持ち帰りされて猫として一緒に住むことに……。

1話

ズブーツ、ボタン。
ズブーツ、ボタン。

私の名前は遠野 美音子、24歳、無職。

24歳で無職ってどうかと思うけれど、勤めていた会社が倒産してしまったのだから仕方ない。

このご時勢、個人経営の会社は経営が厳しいのはありがちなことなのだから。

今は職安で失業手当をもらい、昼に就職活動をしながら夜はコンビニでアルバイト。

そんな生活がすでに4ヶ月は経過している。

まったく決まる気配のない就職活動に気持ちはふさがり、支払いが不安になってきたアパートを引き払い父子家庭の家に戻った。

3年間一人暮らしをしていた娘が戻って父は喜んでくれるだろうと思っていたのに、戻ってそうそう父の口から出た言葉に、私の方が打撃を受けてしまった。

「付き合っていた女性に子供が出来てな？ 責任を取って今度結婚しようと思っている」

「こ、子供？」

24歳で姉弟が出来る……。

しかも出来婚。

衝撃的な内容にくらりと眩暈がした。

母を病気で亡くしてから父は仕事一筋で、女性の影すらなかった
と思っていたのに、いつの間にか付き合っていた女性がいたなんて
しかもその女性は私よりたった5つ年上の20代だった。

その事実はひどく私を打ちのめした。

ズブーツ、バタン。

ズブーツ、バタン。

父子家庭の経済状況のことを考えて、私は高校を卒業後、就職し
た。

入社した時、すでに個人経営の会社は傾きをみせ、高年齢の社員
をリストラしたばかりで迎えたたった1人の新入社員。

仕事は8時からのはずが、職場の清掃を言い渡され、朝の6時出
勤を余儀なくされ、就業は5時だったのだけど、当然、サービス残
業が待っていて8、9時まで残業が続いた。

そんな状況なので少しでも会社に近い場所で一人暮らしを始めた
のだけど、高卒の給料ではセキュリティのしっかりしたマンション
を選ぶことは出来ず、木造アパートが精一杯だった。

薄い壁、歩く度に軋む音。

それでも会社からは近く、自分だけのお城だった。

ズブーツ、バタン。

ズブーツ、バタン。

今思い返すと、思春期特有の反抗期すらなく、私は真面目一辺倒
で生きてきた。

幼い時に母を亡くし、父は仕事で忙しかった。
そんな父に我が侘をいうことすら、私には出来なかった。

ズブーツ、バタン。
ズブーツ、バタン。

彼は高校生の際にいたが、あっけなく他のオシャレな女の子に
乗り換えた。

まあ、冗談1つ言えず、まじめな優等生の地味子より、可愛くて
おしゃべりが上手な楽しい子に気持ちが移ってしまうことは理解が
出来る。

高校生の付き合いなんて、どれだけ楽しいかが重要なことから。

馬鹿みたいに真面目な人生。

だからってそれで得をしたことなんてない。

24歳にもなって、今の私は、無職。

血縁者の父は、若い妻と生まれてくる子供に夢中。
彼氏もいなくて、これといった趣味もない。

そんなだから、自分で自分が面白みのない人間だということもわ
かっている。

私だってダブーを犯してみたい。

でも犯罪は嫌だし、変なことは出来ない。

真面目な人間は真面目のままなのだ。

ズブーツ、バタン。
ズブーツ、バタン。

よく、真面目な人が切れると怖いと聞く。
その話は事実なのかもしれない。

だって今の私は誰が見てもおかしいと思うようなことをしようとして
しているのだから。

ズズーツ、バタン。

ズズーツ、バタン。

深夜の閑静な住宅街。

だからなのか意外と音が響く。

人気のない道路の端を私は歩いていく。

私の後ろから聞こえる音の大きさに顔をしかめつつも歩みを止める
ことはない。

長く真っ黒で真っ直ぐな髪。

身長は152センチ。

黒いフードパーカーにデニムのショートパンツ。

黒のニーソックスに、青いスニーカー。

頭には黒猫の耳がついたカチューシャ。

ショートパンツの後ろには、黒いファアの尻尾キーホルダーの飾り
がぶら下がっている。

私にしたらこれは猫のコスプレなのだ。

街灯の下にある所定の位置に到着すると、後ろで引きずっていた
洗濯機の空ダンボールを置く。

蓋を開いて中に入ろうと跨いだ所、足がまったく下につかない。

踏み台に出来るような物など持ってきていなかったの、きよろ
きよると辺りを見回して見るが代用できるようなものはなかった。

「えっと……」

中に入れなければこの計画の意味がない。
どうしたものかと悩んでいると、あることに気づいた。

ダンボールを横倒しにし、先に中に入り、上を押しながら体重をかけて押すと、ダンボールは横に倒れ、ちゃんと立った。

私はダンボールの中に入ったままで、ポケットから極太油性ペンを出し、蓋についている羽の一面に「ひろってください」と大きな字で書く。

いわゆるダンボールに捨てられた猫の一幕を再生させたのだ。

「準備おっけー」

ペンをポケットにしまい、中に座ってダンボールの羽を閉じて蓋を閉める。

これですべての準備は整った。

私はダンボールを持つ取っ手穴から外を覗く。

計画の実行はあと数分後。

私はドキドキする胸を押さえ、ゆっくりと深呼吸をした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4220ba/>

恋の狂騒曲-クールな飼い主と猫の恋-

2012年1月11日03時56分発行